

ART KISS LETTER

TITLE

第37回熊本市民美術展
熊本アートパレード

DATE

2026

3.22[㊤] / 4.5[㊤]

開館時間 10:00-20:00
*最終日は15:00閉場

休館日 火曜日

本年度
テーマ

さわって鑑賞すること
対話して鑑賞すること

審査員

光島貴之 全盲の美術家

出品数

204点

部門1 さわって鑑賞する作品

部門2 対話して鑑賞する作品



アートパレード大賞

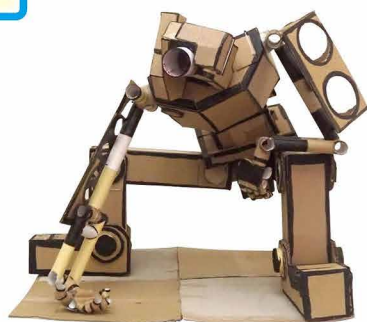
大畑義弘

さわって鑑賞する作品

Curve & Wave (カーブとウェーブ・曲面と波面)

さわることには特化した作品であることが何よりも伝わってきました。造形としての形は単純なのかもしれませんが、さわっていると、微妙な手ざわりの違いや木肌の変化が次々と現れてきて飽きないのです。すべすべしているところ、ざらざらとしたところなど、さわることによって作品がだんだんと分かってきて、この形が好きになってきます。手のひらで全体をさわると気持ちがいいし、指先で木目をたどるといいし、手のひら、指先の両方を使ってさわってみてください。なんとなく、浮遊感のある雲をイメージしたりしましたが、形がどうあれ、さわることが楽しい作品です。壊れるかもと気にせず、安心してさわられるのも大切なポイントです。

優秀賞



さわって鑑賞する作品

kou A Box Man

さわってみて、かなり複雑だなと感じました。それが面白かったんですね。全体をさわって鑑賞するには時間がかかりそうなので、だからこそ一つ一つ探検するように、さわって挑む意欲を掻き立てられる作品でした。ロボットというか、人のような形が、ダンボールの組み合わせだけで表現されているということも興味深いです。

熊本市現代美術館賞

堀川仁彦

さわって鑑賞する作品

こむらさきの王様ラーメン

構造がとても面白いです。ぼくもラーメンを食べますが、麺を口に運ぶ時、麺と箸はこんなふうに着いているんだということ、この作品をさわって体感することができました。実は、そうめんはさわったりもするんですが、ラーメンは熱いですから、さわったことがなかったのです。そして、大きくてユーモアがあるのもいいですね。見えない人もさわってグッと笑ってしまう楽しい作品です。現代アートは難しいと思われがちですが、ラーメンというごく身近な素材からも、現代アート作品が生まれることを示しているとも感じました。



清島桜穂子

さわって鑑賞する作品

なぞって なぞって くるりんこ

カタツムリが歩いた軌跡みたいなラインをさわってなぞっていくと、カタツムリに出会えたり、カタツムリが途中で暴れていた場所かな、と想像したりしながら散歩するようになりました。平面だけど半立体な体験ができますね。ぼくも、ラインテープやカッティングシート、釘を使って、線と面で構成するような絵を描いていて、その表現方法と似ているとも思いました。さわるとツルツルとしたところや、トゲトゲしたところがあり、手ざわりの違いが表現されていて、しかもわりと大きな表面なので、力強さを感じますね。大きいとさわるとに時間がかかりますが、全体をさわった時に満足感があります。



撮影：守屋友樹

井手宣通賞

対話して鑑賞する作品

藤田雅士 どこに向うのか



絵の中央に水道管が途中で途切れている蛇口が描かれているということから、いろいろな意味を想像させました。いま、世界ではいろいろな出来事が起こっていて、まさに「どこに向うのか」わからない。蛇口から水滴が今にも落ちそうに描かれているということにも、非常に不安定さを感じて、現代社会や自分自身の今にも感じている不安とも結びつき、印象深く残った作品です。対話することで、それぞれが自分の不安と向き合う機会にできるかもしれないとも思いました。今の時代の空気を掬い取っている作品ですね。

池上信介 古布(酒袋)と河原の石

さわって鑑賞する作品

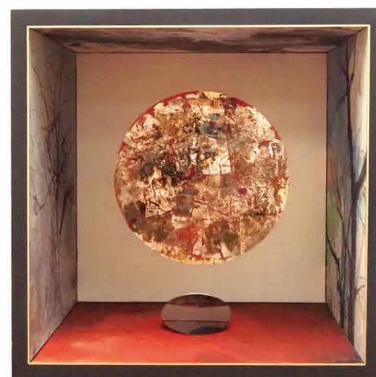
手ざわりのコントラストが印象深い作品です。まず布がとても柔らかくてさわっていて心地よいのですが、さらに硬い石をもってくるのが魅力です。しかも、石は布に包まれていて、隠れているのに、石の硬さも感じられる。柔らかいものをさわりながら中の硬さも感じられる、手ざわりのコントラストが繊細に表現されています。



対話して鑑賞する作品

本多由佳梨 刻の箱

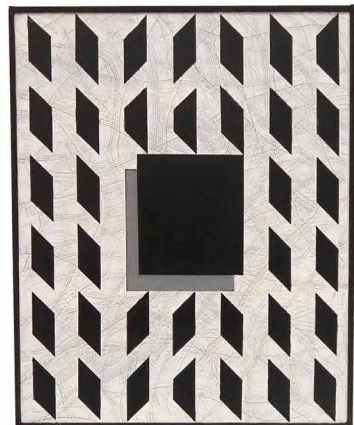
黒い箱の中に絵を隠すという不思議な感じに惹かれました。箱の中に隠された謎を言葉で一つずつ解き明かしていくような体験のできる作品ですね。箱の内側の左右の面に異なる姿の木が描かれていて、それぞれが天面で交わっているように見えるという話が対話の中で出てきて、交わっていくとはどういうことだろうか想像を掻き立てられましたし、まだまだ対話したい気持ちです。



対話して鑑賞する作品

福田真 白と黒B

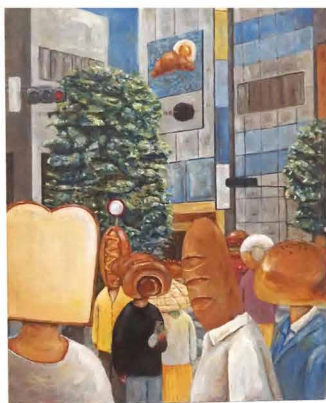
かなり複雑な体験のできる作品ですね。複雑なものや訳のわからないもの、具象的なものよりも抽象度の高いものを対話鑑賞すると、本当に広がりが出てくるので、ぼくはそういう対話鑑賞が楽しいですね。対話のなかで想像力を掻き立てられて、もっともっと鑑賞したい、という気持ちになりました。



対話して鑑賞する作品

坂元祐輔 パンデミック

日常的に食べているパンがたくさん登場していると聞いて、これはなんだか気持ち悪いなと感じました。対話しながらちょっと不安な気持ちを巡らせていたのですが、タイトルを聞いた時に、すごく腑におちたというか、ああ、作品に出会えたという感じがしました。日常で食べているパンだけに、不気味さが募りました。



審査員講評



美術家 光島貴之

今回、「さわって鑑賞する作品部門」に94点もの作品を頂きました。想像を超えた作品数に驚き、実際にさわって鑑賞すると、さまざまな触覚をもった、多彩な表現方法の作品に出合えて、これもまた嬉しい驚きでした。作品に点字を使っている方もいました。見る人にとってもさわると表現は面白く感じられる時代になってきたのだと嬉しく思いました。さわって鑑賞をすることも、対話して鑑賞することも時間がかかります。視覚で作品をとらえることは一瞬の出来事と思いますが、私はいつも、一つ一つ順番にさわって、または、言葉の一つ一つを交わしながら、少しずつ作品の全体を受け止めていくことをしています。でも、これが結構面白いんです。芸術は自分の世界を広げてくれるものと思っていますが、触って・対話して鑑賞することは、自分の触覚や、人々と言葉の交わり合いによって、答えのない世界にどんどん分け入っていく探検みたいなものです。難しい出来事や表現のなかにも、面白さや美しさを感じたり、驚いたり、謎を見つけたりしながら、少しずつ自分のものにしていく。そんな体験って面白いと思いませんか？

見るだけでずっと通り過ぎるのではなく、「さわらないと損」と思って、手のひらや指で時間をかけて鑑賞してほしいと思います。



奨励賞

コジマ・ヒロシ ワチャ ワチャ

さわって 鑑賞する作品



餌をやると鯉がたくさん集まってくる
と聞いてはいたけれど、その様子を
さわったことがなかったので、こんな
に集まるとは発見でした。鯉たちが
喜んでるのが伝わってくるようです。
手ざわりにも工夫があり、複数の触
覚があって楽しいですね。ぜひ、口
の中にも手を入れてみてください。

内田満男 「光譜」

さわって 鑑賞する作品

さわってみると、最初は複雑そうなの
ですが、さわうちに階段状に配置
されていることが分かり、構図がきち
んと考えられている作品だと感心し
ました。周辺にもいろんな触覚が
あって、読み解いて楽しめる、開かれ
た作品ですね。



イモノ屋さん 話せばわかる

さわって 鑑賞する作品



紙コップ、ガラケー、スマートフォンは、
どれも、とても身近で日常的に手に
する／していたもの。さわってみると、
とても馴染みがある。だけど、鋳物で
作られた、形だけで機能のないもの
だというのが面白いですね。この方
法でいろんなものを生み出してほし
いです。

ゆき乃

月で 眠るとき

対話して 鑑賞する作品

絵の中に描かれているモチーフから、さまざま
物語が出てきそうな作品ですね。その物語は、見
る人がどんな経験をしてきたかによって変わっ
てくのが感じられて、面白いなと思いました。



くまっこ コロコロさんだよ

さわって 鑑賞する作品



ピンポン玉を集めただけなんですけど、音
も楽しいし、案外と触覚が複雑で面白
いですね。球はツルツルしていますが、ざ
らとした布地が上にある、その違い
がさわっていて飽きないんです。どこか
転がっていってしまっただけでなくな
らないという、一瞬不安なのに安心してさ
われるのもいいですね。

キノコファクトリー

セッション・ウィズ・ミー!

さわって 鑑賞する作品

音がするのには惹かれました。カリン
パは自分でも持っているくらい好
きですし、カリンパ以外にも、全体的
にさわっていると、いろんな音が
飛び出してくるので、思わず遊び
たくなる楽しい作品です。



宮崎峰守

サイボーグ 雪男の左手

さわって 鑑賞する作品



柔らかさが2種類あって、冷たい部分と温かい
部分と、その手ざわりのコントラストがいいと思
いました。筋肉みたいな触感ドキッとしますね。
手にケーブルが繋がっているっていう、思いもよ
らない出会いには思わず笑ってしまいました。

北田士道



対話して 鑑賞する作品

いや〜謎でした。対話をし続けても、
全く謎の解ける気配がありません。タ
イトルの「口」は、この絵に対話鑑賞し
続けさせられるぼくたちの「口」のこ
とを示しているのかもしれない、と、おそ
ろしさも感じる奥深い作品でした。



那須恵子

(体操) 心音

対話して 鑑賞する作品

なかなかつかみどころがないのに、
対話の言葉が途切れない不思議
さが印象深く残っています。いつま
でも噛み続けられて、後味の残る
作品ですね。



源嶋留菜

リミナルスペース・タイ

対話して 鑑賞する作品

シンプルな構図ながら、自分に未知な
世界が存在しているのだということ
を感じさせてくれました。世界
に未知なことがあるというのは嬉しい
ことです。

熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

www.camk.jp

ART KISS LETTER Vol.121 (2026年4月)

編集：里村真理

デザイン：apuaroot

発行：熊本市現代美術館 www.camk.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500

